

地域発 防災ラジオドラマ in つくば 2009
筑波小学校区（上大島・国松・沼田周辺） 地震災害編

前提条件の整理（読まない）

地震発生 冬の平日の朝9時

震源地 筑波山直下

マグニチュード 7規模

筑波小学校区の震度 6弱〜6強

天候 くもり

課題 避難と避難所運営

状況設定（読まない）

筑波小学校区の被災者たちは地震発生から3時間が経過するころには、それぞれ、自宅、一次集合場所、自主避難所、指定避難所、などへの避難を開始。そして指定避難所や自主避難所では、避難所運営組織が設立され、本格的な避難生活への準備が進んでいく。運営組織づくりには、平常時の災害訓練の知識が役に立つ。しかし、相変わらず情報の入手がままならず、防災マップに把握している情報をプロットしていく方法などで集約し、把握しようとする努力が行われる。自治体の支援が入るまでの間、個人や商店のストックする食材を供与するなどの共助・互助の意識が働いてくる。

前説（共通ナレーション・毎回放送・ナレーター別録り）

独立行政法人・防災科学技術研究所では、災害時に地域に起きることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害シナリオの作成を提案しています。災害シナリオは、行政が作成した各種災害の被害想定やハザードマップを下敷きにして、地域の「より細かい事情」を勘案して、災害時に実際に起きることを時間に沿って具体的に整理して記述したものを指しています。災害シナリオは、地域の関係者が具体的に自分たちの直面する事態を考える仕組みづくりのきっかけとなるものです。シナリオにすることで、事態の展開していくイメージが掴みやすくなり、必要な対応もわかりやすくなります。

地域発防災ラジオドラマつくば、筑波小学校区上大島・国松・沼田周辺、地震災害編。

このドラマは地域住民の方々がワークショップで議論した内容に基づくフィクションです。

(プロローグ・ナレーター別録り)

地震発生後約3時間が経過し、自宅の被害が大きい人や、自宅にるのが不安な人たちが各避難所に集まってきました。上大島、国松地区は筑波小学校、筑波は松実高校、沼田は、近くの働く婦人の家を自主避難所として開設し集まります。

登場人物

筑波小学校

住民A 男性

住民B 男性

区長A 男性

働く婦人の家

区長B 男性

住民C 女性

住民D 女性

筑波小学校

区長C 男性

筑波小学校

住民A (情報班員A)

男性

住民B (総務班員A)

男性

住民E (総務班員B)

男性

区長D (委員長)

男性

若林 年配女性

働く婦人の家

住民G

男性

シーン① 避難所の開設 12時00分頃

- ・ 避難所である筑波小学校では避難者が集まってきて区長は管理者に安全を確認する。沼田地区は避難所が遠いので、働く婦人の家を自主避難所とする。

♪ ざわざわ声

住民A「田中さんも来たっけか？　うちは玄関とこ半分つぶれて水も出ないし、どうなるのかわかんねえし・」

住民B「俺は家にいたかったけどよ。小学校に来るようになって、言われたから来たけど・・・いつ帰っていいんだか・・・」

区長A「みなさん、校長先生と安全確認が終わったので、体育館の中に入って大丈夫です。」

♪ 子供の歓声

住民A「そっか。子供たちもいるんだな？　うううう寒い。これじゃあ、背筋がびんとして若がえつちまうよ。」

住民B「何言ってるんだか、こんな時に。でも、ここも電気使えねえべ？」

住民A「毛布は？　よく毛布くるまってるの見つけど・・・毛布がどっかにあっか？　届くのか？」

住民B「区長さんよ。来いって言うから来たんだから、ここでどうするのか早く指示出して下さいよ。」

ナレーション(ナレーター別録り)

そのころ、沼田地区では・・・

区長B「じゃあ、皆さんは働く婦人の家に避難してください。」

住民C「えっ！！小学校じゃなくていいの？」

区長B「小学校までは遠いし、道もまともに歩けないからお年寄りとかは大変なので、「働く婦人の家」を自主避難所として開設しましたので、そちらに行ってください。」

住民D「何か持っていくものとかあるかしら？　子供の紙おむつとか・・・あ、でも隣に保育所もあるわよね。」

シーン② 避難所運営委員会の設置 12:30頃

・避難者は避難所に入ったが、その後何をすれば良いか判らず、避難所運営委員会を設置し、避難所を運営し始める。

ナレーション(ナレーター別録り)

各避難所では管理責任者の安全確認後、中に人が入ることができました。

区長A「じゃあ、各地区の区長さんと常会長さん、班長さん、集まってください！皆さん大変ですが、一緒に協力して頑張りましょう。以前、防災訓練でやった内容、覚えていますか？」

住民A「ああ、確か防災訓練の時はよ、避難所運営委員会？だっけそれを作る練習したっけな。」

区長A「えーと、まず委員長をきめて、情報班、総務班、救護班、物資班、食糧班と役割毎に5つの班を作ります。そしてそれぞれ、班長を一人ずつ決めましたよね。」

区長C「情報班は被害情報の収集や、松見高校や働く婦人の家との連絡。総務班は避難者の名簿を作ったり、学童の引き取りや保護だな。救護班は負傷者の応急処置や、救命活動などで、物資班は物資の需要を調べて地区住民本部に報告、あつ、ここになるか・・・に報告して、各避難所や、自主避難の人への物資の仕分けです。そうそう！働く婦人の家は予備避難所なんで、その人たちの分の物資もここに届くのでそれを仕分けして・・・」

住民B「ここに来る途中にあんだから、役所も融通きかせて置いてきたらいいのに。」

区長C「えーと、最後に食糧班ですが・・・炊き出しになります。住民の皆さんの協力を得て、食材や機材を確保して、炊き出しをすすめてもらいます。ということで・・・5つの班の班長さんを決めてから、班員をそれぞれ4.5人位ずつ決めてください。」

住民A「結局自分たちで準備しないと・・・役所をまっけてらんねえな。」

住民B「早いとこ決めないと、昼飯がよ・・・あれっ？でも学校の子供たちの分の飯も考えなきゃなんめえよな。」

住民A「そうだな、引き取りの来なかった時の子供のことも考えないと」

シーン③ 被災状況と避難者情報の把握 13:00頃
・情報班と総務班は被災状況と避難者情報を把握するが、自宅などに避難している人の状況の把握ができない。

ナレーション(ナレーター別録り)

避難所運営委員会がたちあがり、各班が役割毎に仕事をはじめました。

住民A「みんなに聞いた被災情報を、前に作った防災マップに書き写す。と、でもここにいる人だけの分しか情報はないからな。皆さん！他に被害情報で知っていることはありますか？どういふことでもいいですよ！でも、他の避難所も聞かないとわかんねえし。どうやって・・・あつ！そろそろ携帯が使えつか？充電が足りつかない？」

区長D「みなさん！これから避難者カードを配るので、記入してください！これを作って確認してからじゃないと、避難物資の要請が出来ないので、速やかなご協力をお願いします！小学校の子どもたちは、先生が把握しているから、先生方、子供の人数だけお願いします。」

住民E「筆記用具は人数分はないので、使ったら次の人に渡してください！そして、記入したらこちらに持ってきてください。」

住民B「名簿作るのはいいけど、この特別なケアの必要な人ってどうすんだ。詳しく書いてもらわないとわかんないから聞いてみつか？すみませ〜ん！これから名前を呼ぶ人はもう一度こちらに来てください！若林さ〜ん、池田さ〜ん、小川さ〜ん」

若林「はい。えっ？もつと詳しくかかなくちゃいけないの・・・それはちょっと・・・個人的なことだし・・・」

住民E「すみませんが、いろいろ準備するのにも必要なので・・・」

住民A「さつきから、他の避難所と連絡取ろうとしているけど・・・連絡がつかないんだけど、委員長、どうしたらいいんだ？」

区長D「そうだな、ここは地区住民本部だから連絡がつかないとな・・・。そうだ！避難訓練の時に教えてもらった、バイクボランティアのIRBの人に無線で連絡してみたらどうだろう。うまくいくかな。」

住民A「とりあえず、やってみっ。」

シーン④ 物資の把握と炊き出し（働く婦人の家） 13：30頃
物資班による非常食や薬などの物資の把握と、食料班による炊き出しが始まる。

ナレーション（ナレーター別録り）
沼田地区の予備避難所の「働く婦人の家」では、お昼の時間も過ぎたので炊き出しの準備を
し始めました。

♪ ご飯を作っている包丁の音と人のざわめいている声「お醤油くれる??」など

住民C「うちはお米がたつぷりあるからもつと持ってくるよ。どれ位いる？」

住民D「うちは精米していないのならあつたけど。畑の菜っ葉や大根はたくさんあるよ。それに、電気がつかないから、冷蔵庫の中の物もどうせ傷んじゃうからもつてくるわよ。」

住民C「確かにそうよね。うちも冷蔵庫の中のものも持ってくるわ。でもこの人数だとどれくらい持つかしら。あのスーパーマーケットにお願いしてみるってどうかしら・・・。」

住民D「いいわね。後で物資班の班長さんに言ってみれば。」

ナレーション（ナレーター別録り）

夕方になり日も沈み、どんどん気温が下がってきました。

住民C「区長さん、やっぱ夕方になってきたら子供が寒い寒いって。なんか毛布とか暖房器具とかないんですか？あつ！これって物資班の人に言うんですか？」

住民D「うちもばあちゃんが寒いって、冷えると腰が痛むし、腰悪いから、和式トイレはきついつて。洋式トイレがあるといいんだけど・・・。」

住民G（在宅避難者）「区長さん！！区長さんよ！！うちんとはここに来なくても家は大丈夫だけど、水も食料もないんじゃないかと困るんだけど・・・物は届いてないの？」

区長B「えーと、市からの救援物資は届くのはまだかなり時間がかかるようです。なので、ここにいる人や、近くの人たちで持ち寄ったり、提供してもらったり、貸してもらったり、お互いにカバーするようにするしかないようなんです・・・。」

住民D「じゃあ、何がどれ位必要で、誰が出せるのか決めてリストを作りましょうよ。早くしないと夜になっちゃう。」

(エピソード・ナレーター別録り)

地震が発生してから4時間半近く経ち、ようやく避難所の運営が始まりました。しかし、実際にどれだけの地域に残っているのか、自発的に残っているのか、取り残されたのが把握できない状況です。また、外部の情報も入ってこない状況が続いているため、外部からの支援活動がどうなるのかも掴めません。そんな中、メールや無線機など、災害時に強いとされる手段が威力を発揮してきます。避難所の運営ではこの地域が持っている助け合いの精神や共同意識が作用しはじめます。しかし、様々な世代・習慣の人たちが、急速一緒に暮らすことになるので、運営にあたっては様々な問題が生じてきます。この物語はそれらの問題が始めるところで終わっていますので、続きを是非皆様の地域で考えてみてください。

(エンディング・ナレーター別録り)

このドラマは、住民をはじめ行政など地域のさまざまな関係者が協力して、災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーションとして、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から、意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。

本ドラマに関するご意見、ご感想などを、独立行政法人防災科学技術研究所、またはラヂオつくばまでお寄せください。

このドラマは住民はじめ行政など地域のさまざまな関係者が協力して災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーション（模擬演習）として、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。

● このドラマは地域住民を主体とするさまざまな関係者が協力して災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーション（模擬演習）として、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。ドラマの背景となっている筑波小学校区に関して若干の補足説明を以下にまとめます。

● 筑波小学校区の特徴として、公設避難所がカバーするエリアが非常に広く、災害時に高齢者や要援護者が自力で移動するには避難所までの距離が遠いという問題があります。ドラマに登場する「働く婦人の家」は沼田地区に存在し、市が管理している施設ですが、一般的な避難所には指定されていません。ここでは遠い小学校に行くよりも、地域になじみのある施設を選択するかどうかという問題があるのかということを考えるために登場させています。施設は講習室、軽運動室、調理実習室、相談室などがあり、小学校よりも新しく建てられた建物です。

● ドラマの登場人物に区長さんと常会長さんが登場します。区長さんはこのドラマの舞台となった筑波小学校区に所属する4つの地区のそれぞれを代表する住民組織の代表ですが、常会長さんは区長さんの下で住民への連絡や通達を務める班長さんを束ねる役として存在したり、地区によっては置かないところもあるようです。いわゆる住民主体の地域組織には町内会、自治会、区会などのさまざまな名称がありますが、このドラマでは筑波小学校区に現在存在している地域集団の役割をそのまま生かした形でストーリーを作りました。またいばらきレスキューサポートバイク（IRB：田辺和夫代表）は実在の団体で、国内で発生したさまざまな災害現場でボランティア活動を実施しています。なお、レスキューサポートバイクは全国的なネットワークで活動が広がっています。